荒尾市立荒尾第三中学校　学校だより

ハーモニー

R5. 8. 28(月) No.9 小柳弘志

校訓
自主
創造
協力

前期後半が始まります

７月２１日から８月２７日までの３８日間の夏休みが終わりました。前回の学校だよりNo.8では「有意義な３２８万３２００秒にするために、いろいろな人から聞いた話などをしっかり参考にして夏休みの計画表「コツコツが勝つ(成功する)コツ」を立て、自分でやることを決め自主的に行動してください。」と書きました。みなさんに期待することとして、

① 工夫して体と心を鍛える。
② 学校の宿題＋自分で決めた学習で“できる”を増やす。
③ 家族や地域から喜ばれることに挑戦する。

の３つを挙げていましたが、いかがでしたでしょうか。７月２０日の集会で発表してくれた代表生徒の話の一部を掲載します。皆さんも気持ち新たに実践を重ねましょう。

１年代表

宿泊教室で学んだ“協力”という事をこれからに生かしていきます。また、次の期末テストでは、もっと**効率の良い方法を見つけ、前回の順位と点数を超えられるように工夫していきたい**です。前期前半は初めての事が多く、自分の事で精一杯だったので、**前期後半は周りに目を向け、前よりもっと人を気遣えるようにしていきたい**です。

２年代表

勉強では**前期期末テストに向けて各教科の差が少なくなるように計画を実践する力を身につけたい**と思います。次に部活動では陸上部に入っていますが、２年生になって初めて８０ｍハードルや４００ｍリレーで決勝に進む事が出来ました。１年生の頃は、あまり満足できる結果が出なかったので、とても嬉しかったです。これからも、もっと**上を目指して頑張っていこう**と思います。最後にクラスについてです。年度始めは楽しみより不安の方が大きかったです。しかし、体育大会などの行事を通して、声をかけ、励まし合ったりした事で活気が溢れてきました。しかし、１分前黙想前の着席や、自ら挨拶や返事をするなどの基本的なところがおろそかになっていたと思います。なので、**基本的な事が当たり前に出来るよう、普段の生活から見直していきたい**と思います。そして、夏休みがあけると、いよいよ合唱コンクールの練習が始まるので、**互いに声をかけ合い、今よりより良いクラス、学年で充実した学校生活を送っていけるよう頑張っていきたい**です。

１．２年生代表は勉強、部活動、仲間づくりの素晴らしい目標を語ってくれました。

３年代表

先輩が卒業し、リーダー研修に参加しました。その中で僕が学んだ事は「失敗しても前に進んで挑戦し続け、自分で行動し、変えていくしかない。」という事です。人に頼ってばかりでは何も始まりません。それなら、「自分ですべてやってやる。」というような勢いで行動する事が何よりも大事だと思いました。４月から４ヶ月間、僕は少年の主張や給食クイズに取り組んできました。

今年の夏休みは受験やこれから自分がしたい事への最後の準備期間だと思います。だから、しっかりと準備をして、９月からまたたくさんの事に挑戦していきたいです。卒業まであと少ししかないので、副委員長として生徒全員が楽しいと思えるような給食時間にする。給食委員会の年間目標の達成。そして、みんなを導いていくようなリーダーを１人でも多く増やしていく事が僕の目標です。

その為にも皆さんに委員会の事や、リーダーの大切さや、みんなを導いていくリーダーの楽しさを知ってほしいです。３年生の皆さんと一緒に後輩達の目標となり、さらに荒尾三中を良い雰囲気にしていきます。

３年生代表は生徒会専門委員会の事やこれからの進路決定に向けての事、後輩への期待等を語ってくれました。ありがたいと思います。素敵な先輩ですね。

自分の素晴らしさ、相手の素晴らしさに気づけるように

「気づくこと」ができるようになると自分の力が伸び、自立した人間に近づきます。今回も作文を紹介します。

第４１回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文
「煌太、お姉ちゃんと手をつなごう」長崎県平戸市立中部中学校３年生の作品

弟の煌太は大きな頭になで肩。そして、いつもにこにこと笑っている。弟はソトス症候群という障害がある。ソトス症候群は、出生時から頭囲や体つきが大きいし、発達の遅れなどがある。また、同じソトス症候群の人たちは、皆、同じような顔つきだ。ほとんどの場合は、突然変異での発症といわれている。２０１２年８月１３日、弟は生まれた。私は祖母と家にいて、弟が無事に、元気よく生まれたと聞き、嬉しくて、嬉しくて、その夜はあまり眠られなかった。翌日、弟との対面。保育器の中で、すやすやと眠る弟を見て、「私が、お姉ちゃんですよ。」と背伸びをして手を振った。弟の体には沢山の管がついていたため、その日は抱っこができなかった。退院後、初めて弟を抱っこできる時が来た。布団の上に座り、両腕を広げてかまえ、しっかりと弟を受けとった。それから私は弟に、「私がお姉ちゃんだよ。」「これからよろしくね。」と話し掛けつづけたのを覚えている。

小学校に入学した私は、少しずつ弟の障害に気づき始めた。弟の同級生は皆言葉を覚えて話しているのに、弟は「あ」、「ん」としか言えないのを疑問に思い、母に尋ねた。すると、母は弟の障害について話してくれた。私は、最初は驚いたが、そう気にすることなく、弟と楽しい日々を送っていた。しかし、成長するにつれ、周りと弟の成長の差や、買い物に行った時の周りの目が気になるようになっていった。**そして私は、徐々に弟と距離を置いて歩くようになった。本当は並んで歩きたい気持ちがあったが、周りの目が気になりなかなか勇気がでなかった。**

中学一年生のある日、弟といとこと母と買い物に行った。母たちの買い物が終わるまで弟と店内を回ることになった。弟は少しずつ物事を理解できるようになっていたので私も安心していた。しかし、突然弟が大好きなお菓子を手にとり、外に出ようとした。私は焦って弟の手からお菓子をとりあげ、弟の手を引っ張った。弟はその場に座り込み、大泣きをして暴れ始めた。私は頭が真っ白になり、ただただ、弟を落ち着かせようと背中を必死にさすった。泣きわめき、暴れる弟を前に、私にできることはそれだけだった。すると、一緒に来ていたいとこが騒動に気づき、母を呼びに行ってくれたので、「これで大丈夫。」とほっと胸をなでおろした。**その時だ。気づいたのは。私と弟を冷ややかに見る沢山の人の目に。入り口から入ってきて私と弟を避けるように足早に去って行く人達に。私は悲しい気持ちと自分の無力さに胸が一杯になった。そして、車にのりこんだそのとたん、涙があふれ、止めることができなかった。弟はいつもどおりいとこと手あそびをしていた。そして、母は黙ってハンドルを握っていた。**

その日の夜、父に呼ばれ、話しをした。私は、お店で起こった事、その時の気持ちを伝えた。すると、黙って聞いていた**父は、「いい勉強になったね。お前の弟は、その場におった子供さんや同じ二年生の子供と違うかもしれんけど、お前の弟は、この家なら大丈夫だと思ってここに生まれてきてくれたとよ。だから、『私の自慢の弟だぞ』って胸を張れ。」と言った。私は胸が熱くなった。話しを終え、弟の部屋に行くと、また自然と涙がでてきた。でも、今度の涙はあたたかい涙だった。眠っている弟の顔を見ると、弟を初めて抱っこした時の事がよみがえった。あの時、ずっと弟に掛けていた言葉。「私がお姉ちゃんだよ。あなたを守るためにお姉ちゃんがずっとそばにいてあげるからね。」私は、眠っている弟にあの時と同じ言葉をつぶやいていた。そして、“一生弟を大切にしよう”と自分自身に誓った。**

それからは、買い物に行く時、弟と手をしっかりつないで、話し掛けながら楽しく歩く。もしも弟が暴れたら、落ち着いて母に連絡をする。すると、**時には、弟を見た同級生や年配の方が優しく声を掛けてくれることもある。私と弟の周りには、冷ややかな目や足早に去っていく人ばかりではないことにも気づいた。**

私は、あの日以来、弟と手をつなぐことで、人間や社会の現実の姿が見えるようになったと思う。決して、いいことばかりではない。でも、人の温もりや優しさを感じることも多くなった。そして私も弟と一緒に一歩ずつ成長していると感じる。いつか、煌太と私はつないでいる手を離し、それぞれの生活をする時が来る。その時、煌太も他の障害がある人も、すべての人が、安心して、胸を張って生きられる社会を、私は築いていきたいと願う。今日も、私は、煌太と手をつなぎ、話しかけながら楽しく、しかし力強く歩いていく。